



MEISTER L1
昨年(SEMA)デビューモデル!

2016年のSEMA SHOWにてMEISTER新作となる3PアイテムのMEISTER L1 3Pをリリースしたワーク。基本となるデザインはMEISTERブランドに相応しい質実剛健な造形。サーキットトラックからストリートまで、あらゆるシチュエーションで遺憾なく存在感を発揮する6スポークデザインとなっている。

からこそなせる技と言えよう。また、このスポーク形状が、デザインだけでなく、ブレーキキャリパーの干渉をかわす上でも考え抜かれた形状であることにも着目したい。

分に塗装が乗らず、さらには走行中の振動によって塗装の浮きが生じやすく、腐食を発生させる原因にもなりかねない。それを防ぐための極小Rなのである。誰も気づかないような細部にまでこだわりを貫く。それがワークというメーカーだ。

ラ グジメアルファインダストリーズ。その先鋭的なタッグがホイールメーカーのパトナーとして選んだのは、今年で創業40年を迎える老舗メーカー「ワーク」だ。

が、マスタングRがチョイスした「マイスター・S1R」にも、それらの強みは存分に活かされている。

匠の技が築く本物の価値

本物×本物のコラボレーションに必要なホイールは、当然ながら“本物”であることが要求される。機能・デザイン・強度・耐久性、それら全てにおいて徹底的なこだわりを貫くワークのホイールは、掛け値なしに“本物”と呼べる存在だ。

photo/Kunihisa Kobayashi text/Toshio Suzuki

WORK
MEISTER S1R
M1
L1

M1R 2PIECE (LEFT)

シャープで力強く、なおかつエレガント。相反する2つの魅力をたたえたメッシュデザインは、車種を選ばず、あらゆるクルマに似合う普遍性を備える。細部にまでこだわった仕上がりの美しさは、ワークならではのクオリティ。

S1R 2PIECE (ABOVE)

2017年東京オートサロンで発表された新設定サイズ20インチ「S1R」は、マイスターブランドの中で最も長い歴史を持つ「S1」の進化バージョン。より抑揚のあるフォルムとなった5スポークは、「伝統」と「革新」を見事に体現。

過酷なモータースポーツの現場で徹底的に鍛え上げられた「マイスター」ホイール。ホイール名に備わる「R」の文字には、「レーシング」をはじめ、「リヴァイバル」「リファレンス」「レボリューション」といったさまざまな意味が込められている。「伝統」と「革新」という2つの相反する要素を高い次元で両立させたホイールが今回のコラボレーションに選ばれたのは、必然とも言えるべき流れだったに違いない。ちなみにMEISTER S1R/M1Rの20インチ設定は今年からである。

